



「東京都共助社会づくりを進めるための社会貢献大賞・特別賞」を受賞しました

平成29年1月22日(日)日経ビル・日経カンファレンスルームで贈呈式があり、東京日本語ボランティア・ネットワークは特別賞を受賞し小池都知事から賞状と盾を戴きましたのでご報告いたします。

社会貢献大賞について

▼趣旨

東京都では、ボランティア活動に関し継続的取組や先進的な取組を行っている企業・団体等を表彰し、これまでの活動に報いるとともに、気運の盛り上げの一助とすることを目的として、「共助社会づくりを進めるための社会貢献大賞」を創設しました。(東京都の報道発表資料2017.1.13から抜粋)

▼紹介されたTNVNの取組内容

都内の日本語教室のネットワークとして外国人への教室紹介、ボランティアへの情報提供・情報交換会・講習会等で日本語教室活動を活性化している。

▼社会貢献賞を受賞して

TNVNは1993年に発足し以来23年間、活動を続けてきました。これは設立時のモットーのもとボランティアとして継続的にTNVNの活動に関わってきたスタッフ

の方々への賜物です。

TNVN会員(団体・個人)の皆さんが地域で地道な日本語ボランティア活動を行っていることと、TNVNのネットワーク活動にご支援とご協力は大きな力となっています。また東京ボランティア・市民活動センター(TVAC)の皆さま方からはTNVNの活動に対して下支えを、そして多数の団体・個人の方々からもTNVNの活動にご理解をいただきました。

▼TNVNのこれから

東京都の表彰を受け、TNVNは23年間の活動実績のもと会員団体や関係機関との交流を一層深め、日本語ボランティア活動が地域における多文化共生社会・共助社会づくりで果たす役割を考え、実践に繋げていけるよう取り組んでいきます。

贈呈式での小池知事の祝辞で2020年東京オリンピック・パラリンピックでは9000名のボランティアが参加することを期待され、またボランティア活動が東京都のレガシーとなることを望んでおられました。今後もTNVN会員および同じ取り組みに関わっている皆様のご支援・ご協力・ご鞭撻をお願いします。

—— 梶村 勝利

受賞式に同席して

■式典は、受賞を祝う日に相応しく、綺麗な青空が広がった1月22日(日)の13時10分から、皇



小池知事から賞状を受けるTNVN梶村代表

居を望む大手町の日経ビル内日経カンファレンスルームで行われました。会場は、400人は収容できる広い部屋で、大賞・特別賞を受賞した企業・大学・団体の出席者や関係者が指定の場所に座り、部屋の後ろにはNHKなどのテレビカメラが並び、両側の壁に沿って報道関係や受賞関係者のカメラが並んで、とても壮観でした。

正面の一段高い舞台上で、大賞に選ばれた団体の企業部門から贈呈式が始まり、大賞の贈呈式に続いて行われた特別賞贈呈式で、TNVN梶村代表が企業部門に次いで受賞しました。都がこのような賞を贈呈するのは、今年度が第一回目だそうです。

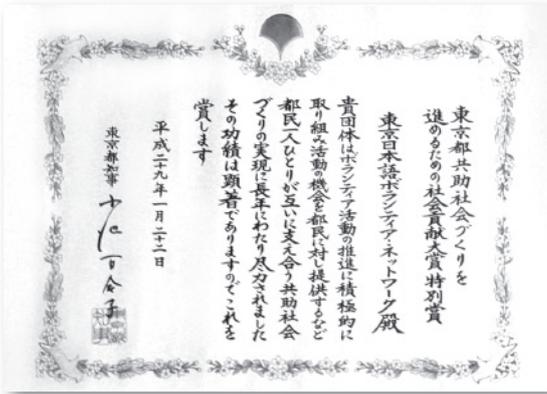
大賞・特別賞贈呈式の後、都知事祝辞、来賓祝辞と続き、其々の代表と都知事の合同記念撮影の後閉会となりました。贈呈式に出席して、TNVNの役割はますます重くなっていくと感じました。

—— 神 歩

■初めて参列する表彰式の30分は私の脳裏に焼き付いた一瞬となりました。素晴らしい会場でした。参列者も会場の右側の前



同席したTNVNの皆さん



■新年早々、東京都が賞をくださるとい嬉しいニュースに舞い上がり、この23年間に振り返って感慨にふけております。

横のつながりもなく手探りで活動していた都内各地の日本語教室が、ネットワークを組むことができたのは、東京ボランティア・市民活動センター(TVAC)のおかげです。各地

方に席が用意され、近いところで知事が表彰団体の代表に表彰状を渡すのを拝見しました。「これからも頑張ってください」との言葉が今も耳に残っているような感じがします。日本語ボランティアの受賞団体はTNVNですが、日本語ボランティアにとって大きな励みになるものでしょう。TAMA 日本語共育ネットワークの例会でこの受賞のことをお知らせしたところ、「東京都も日本語ボランティアを高く評価しているんですね」と喜んでいました。全ての日本語ボランティアにとってもこの受賞は喜びにつながるものではないでしょうか。

——床呂 英一

の日本語ボランティア有志がTVACに集まり、「はじめまして」からスタートした東京日本語ボランティア・ネットワークを、よちよち歩きから立ち立ちできるまで手を引いてくださり、その後もずっと温かく見守っててくださいました。本当に感謝の言葉もあります。

1980年頃生まれた、近所の外国人を支援する日本語教室は、当初、主婦が中心だったこともあり、主婦のひまつぶしなどと言われたこともありましたが、男性が増えてきて、バランスのとれた活動になってきました。外国の方々を「おもてなし」の心で永く支援していきたいと思えます。

——林川 玲子

TNVNスタッフから一言

■20余年にわたる活動が認められたのは嬉しいことです。「会場の確保が困難」や「活動費の不足」などといった、TNVN設立以来ずっと解決されてない課題があります。今回の受賞が解決の糸口になることを切に願っています。

——岡田 美奈子

■TNVNスタッフ歴1年ですが、我がこと以上に嬉しいです。開設時スタッフNさんが私と同じ団体の方で、当時TNVNについて熱く語られていたことを思い出します。受賞は、これまでのスタッフ皆様の熱意の賜物と、改めて身の引き締まる思いです。

——山内 真理

■この度の表彰は思いもかけずうれしい事でした。ボランティア活動の団体は数知れずの中からですから。オリンピックを目前にしているためもありますが、日本語ボランティアの必要性が認識されているのでしょうか。

現在のスタッフは勿論ですが、二十三年の間には、たくさんの方々が力を貸して下さい、現在があります。ネットワークを支えて下さったすべての方々に感謝です。

——小川 伶子

受賞報告に寄せられたお祝・コメントから

TNVN会員とお世話になっている方々からお祝いメールが寄せられました。ありがとうございました。

●東京日本語ボランティア・ネットワークが、「東京都共助社会づくりを進めるための社会貢献大賞」の特別賞を受賞することになったとの事、日頃の努力が評価され本当におめでとうございます。

●年に一度、総会でみなさまにお目にかかるだけの会員ではありますが、本当にみなさまのご尽力には頭が下がるばかり、そして心から感謝しております。

●私達の会は毎月第一土曜日(今月は14日)にミーティングをするのですが、前日の小池知事の記者会見を見ていた会員より、TNVNが表彰されるらしい、という話があり、一同驚き、喜びました。

●東京都に「ボランティア活動推進協議会」という会が発足し、最初に活動を認めていただいたことは、TNVNの活動がますます期待されていることと思っています。

●これまでの地道な活動と、今後ますます外国人を対象とした活動の重要性が増すことが認められてのことと思います。私は飯田橋に伺う際、事務局や役員の皆さんの活動を拝見する機会があるのですが、一般の会員の方には皆さんが日ごろどれほど尽力されているか、見えづらいかもかもしれません。今後とも会のため、ひいては都内の多文化共生をすすめるためよろしく願いいたします。

●長年にわたっての熱心な活動、継続されて来たことが評価され、私ども会員団体としても大変うれしく思います。ご苦勞も多かったことと思いますが、長年のご努力に敬意を表します。TNVNのますますのご発展とご活躍をお祈り申し上げます。

●長年のTNVNのひたむきな活動が東京都に認められたということですね。このような受賞は本当に名誉であり、日頃の私たちの

活動が勇気づけられますね。

●先日、私たちの新年会でも皆様にこのことをお知らせしました。TNVNに参加している日本語教室の皆様には大きな励みになりますね。

●地道な活動が地域に根を下ろし、支え合う社会づくりが評価されたことに我このように嬉しく存じます。引き続き外国にルーツのある子どもたちのために楽しく労していきたいと思えます。

●私たちのグループが順調に運営できるのも、学習者の紹介や、日本語学習の指導法指南など、TNVNのお力に負うところが大きいと思っております。

●皆さまのこれまでのご努力とご継続の賜物と敬服しております。この受賞を励みに、今後も一層の外国人支援が行えればと気持ちを引き締めております。

2016年度の TNVN情報・意見交換会を開催しました

2016年度の情報・意見交換会を12月4日(日)13:00から16:00まで、「さぼりと21」の会議室で開きました。
参加者は29名(20団体)、東京都生活文化局都民生活部2人で、主要な情報・意見をまとめました。

最近の活動状況報告から

最近活動を始めた団体から

- 今年10月に3人でスタート、現在9名、生徒15名で部屋が狭く待機学習者1人。
- 3年前立ち上げたときは規約・ルールはなかったが、その後作ってから活動の目標が出来、皆が協力する様になった。
- スタート時はスタッフ・学習者ともに少人数だったが3年ちょっと経ち、現在はスタッフ9人(実働6人)・学習者15~30人、スタッフが足りず学習者への対応が課題。

一方で長く活動している団体で

- ボランティア10名、学習者が5名に減少し増えない。場所が原因か。

夜の教室では

- 夜のクラスの特徴、入門学習者が半分だが60%強が数回で来なくなる。
- 夜は技術研修生で若い人(20代)が多い。

高齢化の問題は絶えない

- ボランティアの高齢化で学習者とテンポが合わない。
- 高齢者には昼の2時間に「絵手紙講座」「年賀状」などで活動して貰う。
- 多世代のボランティアとなり、意識が異り会全体をまとめ難く活動のシンプル化が必要か。

その他では

- ベトナム・ネパール等東南アジア諸国からの学習者には特別な対応はしていない。
- 学習者の子ども(中国・ロシア・ベトナム・ネパール)の保育施設があるが保育待機者が多く、学習したくても出来ない。

多文化共生社会の中での 日本語ボランティア活動

(行政等や教室間の連携・協力)

第10ブロック連絡会での活動

(詳細は4ページの寄稿)

練馬区の日本語教室ボランティア懇談会

- グループごとに持っている課題をお互いに考えるため区との話し合いを昨年(2015)に引き続き今年も14グループが集まり、区に活動報告をしてもらい意思の疎通がされた。その結果ボランティア登録リストを作成し、年度途中でもボランティアを補充できる体制づくりを区が行うことになった。

八王子国際友好クラブから

- 今年行政・国際協会との3者で話し合いができた。
- 学習者は複数の教室に行っているが、行政との連携にはボランティアの繋がりが必要。

その他の地域では

- 世田谷区は2020オリンピック開催で国際交流予算が付き、日本語教室に関心を持ち始め、協力要請があった。
- 羽村市との協力・援助はないが市主催で「世界の文化交流」が開催、ベトナム(一昨年)中国(昨年)メキシコ(今年)料理を通して国際交流が行われ、協力している。
- 府中国際交流サロンと多摩市国際交流センターは行政との協力関係があり、会場の確保や予算にも恵まれている。府中では大学と工場との連携が進んでいる。

教室同士の交流

- 「つばさ」(羽村市)と「やまびこ」(江戸川)は東西に離れているが、代表者が

活動日に訪問し合い、交流会を行い普段と違うメンバーで交流ができた。

- 府中国際交流サロンと八王子にほんごの会「寺子屋」は前会長のつながりでボランティア同士が交流し悩み事や行政との関わりを持つにはどうするかなど意見交換をした。

費用対効果

- ボランティア活動の成果は費用対効果では測れない
- 場所の確保で区に相談したが「費用対効果」がどうかを問われた。
- ボランティア活動は「費用対効果」と言われるのはおかしい。
- 「数字を出す」「成果」を問う区や市の人に「働きかけていく」のは難しい。活動の現状をアピールし理解してもらう。

日本語ボランティアの 養成講座

- 講師を呼んで講習会をしてもらったが現場では役にたっていないと感じる事がある。
- 養成講座の中身が大切ではないか。多文化共生との兼ね合いでどんなボランティアが必要か。
- 最近各地で養成講座を開くようになりました。TNVNも出前講習会をしている。
- ゼロベースの人に教えるのは特に難しくプロが対応し、その後ボラが支援するが良い。
- 江戸川区「日本語ボランティア入門講座」2時間で8回。短い、何も知らなかったものには勉強になった。

広域連携で 多文化社会の課題を探る

寄稿

石川 秀樹

清瀬国際交流会 多文化共生事業担当（清瀬市）

私が住む清瀬市は人口約7.5万人で、都内では小規模自治体です。外国人人口は約1,100人程度ですので、多文化化が街に及ぼす影響は大きなものになっていないため、行政課題にはなっていません。しかし、外国にルーツを持つ子どもの学習や貧困などの生活問題について、個々には重たい課題が散見されます。

ところが、日本語ボランティア活動を行なう人々は、そうした課題をあまり理解していないのが実状です。日本語を教えることに興味はあっても、外国人が日本社会でなかなか活躍できずに悩んでいる現状や、隣人としてその支援のためにどうすればいいのかは、日本語教室が関わるべき課題とは認識されていないように感じます。

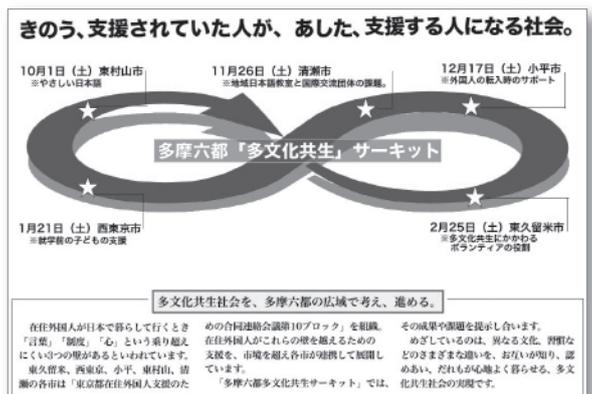
東京都は都内を10のブロックに分けて、外国人支援団体と行政が対等な立場で協議する場を設けています。小平・西東京・東村山・東久留米・清瀬の5市は第10ブロックを構成していますが、この地域は昔から多摩六都と呼ばれ（田無市と保谷市が合併したため現在は5市）、世界一のプラネタリウムを有する多摩六都科学館の共同運営を始め、さまざまな広域行政を展開しています。外国人支援についてもこの第10ブロックは、「多摩六都日本語教室マップ」を作成するなど広域連携を深めてきました。

広域連携の利点は、「お隣の知恵」を借りることです。東村山市は多文化共生係を設置し、専門職の相談員を配置することで年間千件を超える外国人相談業務を行なっています。また、多文化共生推進プランを策定しており、体系的・総合的な多文化共生施策を展開しています。小平市は国際交流協会を中心に、西東京市は協会と同等の機能を持つNPO西東京市多文化共生センターが活発に活動しています。東久留米市と清瀬市は市民団体と行政が協働して様々な事業を行っています。隣の街がどんなことをしているのかは気になりますし、年5回の第10ブロック会議で情報共有することで、そのノウハウを自分の街でも活かすことができます。ま

た、共通の課題である地域日本語教室のPRについては、前述したように多摩六都日本語教室マップを作成してきました。

今年度の広域連携事業としては、自治体国際化協会のアドバイザー派遣制度を活用して、5市持ち回りで多文化社会の課題を探る講座「多摩六都多文化共生サーキット」を行いました。清瀬市は11月26日に、日本でもっとも先進的な活動を続けている、とよなか国際交流協会理事の榎井縁さんを迎えて、「地域日本語教室と国際交流団体の役割」をテーマにワークショップを行いました。多摩六都で活動する方々はもちろん、他の地域の方々にも参加していただきたいと考えていました。広報先としてすぐに浮かんだのが、多摩地域の日本語教室の関係者が集う「TAMA日本語共育ネットワーク」（TAMAネット）です。ところがTAMAネットの定例会は奇数月の最終土曜日であり、清瀬での講座と同じ日であることに気がきました。そこでTAMAネットのみさまにお願いして、定例会を講座のあとに清瀬で開催していただくことにしました。それだけでなく、講座のなかの事例報告として、メンバーお二人に、TAMAネットの活動の紹介と、国立地域での外国人のための防災の取り組みを報告していただきました。

小さな街、小さな団体だからこそ、他市・他団体と連携しやすいというメリットを活かし、広域連携で多文化共生の地域づくりを進めていきたいと考えています。



グローバルな人材の育成を目指して

ネパール学校

「エベレスト・インターナショナル・スクール・ジャパン：EISJ」訪問記



2年生クラス

情報交換会などで「ネパール人学習者が増えた」という声をよく聞きます。2016年の法務省の統計によると東京在住のネパール人はおよそ21,000人で、20年前の50倍に達したとのこと。在京ネパール人の子どものための教育を担う「エベレスト・インターナショナル・スクール・ジャパン：阿佐ヶ谷校舎」を訪問して理事長のシュレスタさんにお話を伺いました。

設立から現在まで

子どもをネパールに残して来た親御さんは、子供の成長を見守ることが出来ないという悩みや心配が生じます。小さい時から日本の学校へ通った子供は祖国の祖父母とコミュニケーションができないという悲しいことが起こります。大きくなって日本の学校へ入学した場合、言葉が壁となり、学習に大きな困難を伴います。家族と一緒に暮らして、子供にネパールと同じ教育を受けさせたいという親御さんたちの切実な願いを汲み上げ、2013年4月、杉並区阿佐ヶ谷にEISJが開設されました。ネパール国外に設立された学校としては第1号で、2015年

3月に、ネパール政府の認定を受けました。

開設当初は3年生まででした。子供の成長とともに学年を上げていき、現在は、認可外保育園の幼児クラスが3クラス、小学校が1年から6年までの6クラスになり、165人が在籍しています。生徒・クラスの増加に対応して、2016年4月には荻窪校舎を開き、3～6年生はそちらで勉強しています。横浜、川越、日暮里、北千住などから通ってくる生徒もいますし、日本人、インド人、パキスタン人の生徒もいます。2017年4月からは7年生のクラスを作ります。将来は高校まで増やす予定です。

カリキュラムと目指すもの

EISJでは、本国と同じカリキュラムに則り、ネパールで教職経験のある人、教員資格のある人が教えています。英語とコンピューターに特に力を入れていて、理科・数学・社会科などを英語の教科書で学んでいます。教室や廊下に貼ってある教育用掲示物（世界地図、太陽系の図など）はすべて英語のもので、ネパール語、日本語、ダンスの授業などもあります。

幼児クラスは、仙台の明泉幼稚園でアメリカ人が作った教材「GrapeSEED」を採用し、小学校では、ネパールの学校が使用しているオックスフォードの教材を使って、英語を聞く・話す・読む・書く力を養って

います。

3年生以上は、1週間に3回のコンピューターの授業があり、プログラミングなどを学んでいます。

秋には「運動会」を開いて家族とともに楽しめます。

ネパールでは、高校卒業時に「全国一斉統一テスト」が行われ、その成績が大学入学だけでなく、その後の進路に大きく影響する重要なものとなっています。高校まで拡充した折には、このテストに対応したいと考えています。

EISJが目指している教育は、子供たちが将来ネパールに帰国した時に、本国での教育や仕事に対応できる学力をつけることですが、今一つは世界のどの国でも活躍できる人材を育てたいということです。EISJに子供を通わせる日本人の期待もこの点にあるようです。

訪問を終えて

訪問時、幼児クラスは「朝の体操」の時間で、音楽に合わせて飛んだり跳ねたり。1年生は暦や時間を英語で勉強。2年生は理科の時間で動植物の分類などをカラフルな英語の教科書で勉強していました。どのクラスも元気いっぱい、活気にあふれていました。

学校を作り運営するためには膨大なエネルギーと資金が必要です。ネパール政府の援助を受けることなく学校を作り、NPOとして運営しているシュレスタさんたちの夢と情熱がエベレストのように輝いていました。



幼児クラス・朝の体操



やさしい日本語から スタイルチェンジまで

日本語教師 金子 広幸

中級はじめの時期になると、学習者の質問は似ている表現を取り上げて「どこが違う?」というものに終了します。教師泣かせなのですが、ドキドキしながら「同じです」などと答えたり、違いについて例文でまとめて比べてもらったりします。例を挙げましょう。

A.ここでたばこを吸わないでください。

B.ここでの喫煙はご遠慮ください。

伝える内容は同じでも、表現が違つくと、雰囲気はガラッと異なります。こんな時はチャンス!まず、学生たちに、自分たちの言語にスタイルの切り替えがどのくらい存在するかを振り返ってもらいます。…客観的に見られる人とそうでない人がいて、この段階では、「あまり差がない」と答える人が半数を超えることがほとんどです。そんな結果が出たら、私はさらに、学生たちに、これらの文が登場する場面を事細かに想像してもらいます。「今日は大学で大切な会議があります。その時に禁煙のポスターを貼ることにしました。他の大学の有名な偉い人たちも来ますよ…。」などと、芝居っ気たっぷりに語りかけます。もちろん学生たちからの反応も待ちます。「丁寧に伝えなければなりませんね」とか「いろいろな人がいますよ。ときどきマナーの悪い人もいて、会議場の外でたばこを吸ってし

まうかもしれません」というような反応が金子クラスでは出ました。

私たち日本語使用者は、スタイルの異なる文を巧みに使い分けているわけですが、上記のような会議場にポスターを貼る場合、Aの言い方を使うことができるでしょうか。ちょっと子供っぽい感じがしますね。この機会に、学生たちはBの言い方を「別のスタイルとして」ヴァリエーションの中に収めます。そして、多くの学生は母語の観察を通して、世界の言語には、システムこそ違え、意味は同じでもスタイルの異なる表現があることに気づいてくれます。

私は日本語を使う読者の皆様にも、スタイルが異なる表現の幅があることに気づいていただきたいと考えます。そしてそれが、日本語という言語社会を知り始めた学習者には、壁になることをも知っていただきたいのです。

2016年11月22日の朝地震がありました。テレビの画面にはひらがなで「つなみ、にげて」と書いてありました。多くの災禍をこの日本にもたらした東日本大震災が起こる前には、「津波の来襲が予想されますので直ちに避難してください」と書いてありましたが、今はこんなに簡明な表現でも示されるようになったのです。これは日本社会が、広くテレビを見ている人たちの背景を考えてスタイルの切り替えをするようになった証だと思いました。

きっかけは阪神淡路大震災でした。ここで情報弱者となった外国人市民の尊い命が失われ、犠牲を出さないようにと、各方面で研究が重ねられ、平成25年から、新しい津波警報放送として運用がスタートしました。また、NHK WEB EASYという「やさしい日本語」のニュースも始まっています。難しい日本語がわからない外国人や子どもを対象とした、新たな情報伝達の方法が日本で始まったのです。伝えるには、外国語に翻訳・通訳するだけではありません。

笑話を1つ。ある学生がお金を貯めてやっとの事で電子辞書を買った翌日、東京には大雪が降りました。この人の国では雪が降らないので、電車の運行の乱れの理由を駅の人に尋ねると、「コウセツのためのチエンです」と言われたそうです。さあ辞書の出番! コウセツと引くと妙な訳がたくさん出てきて、え??と思ったとのこと。…「雪のために遅れているんです」でいいのにね。

この「やさしい日本語」は、「通じはすれど日本人には不自然」という面も否めませんね。「先生に習った日本語は、僕の友達の日本語とは違う」と言われないうにしない。「にほんごまだまだ」の人には「やさしい日本語」で。世界を広げたいと思ひ始めたら「スタイルチェンジ」で。スタイル、ますます気をつけたいですね。

■「ゆう」はともだちの友、やさしいの優、あそぶの遊、そしてあなたのYOU

にほんごクラブ・ゆう (江戸川区)

代表／片岡 典子

「にほんごクラブ・ゆう」は昨年10月にスタートした新しいクラブです。JR平井駅近くのコミュニティ会館で、毎週水曜日の夜に活動しています。

昨年は小池百合子さんの「都民ファースト」が流行語になりましたが、私たちのモットーは「学習者ファースト」。自国を離れて仕事に、勉強に頑張っている学習者の居場所になれるようなアットホームなクラブを目指しています。

仲間3人での立ち上げ準備中は、「本当に学習者やボランティアさんが来てくれるだろうか」と不安でしたが、TNVNのホームページを通して素晴らしいスタッフたちと巡り合い、また、外国人

人口が23区一の江戸川区ゆえか、すでに定員30名の集会所が満室になりそうな状況です。

学習者は主に中国とベトナムの人たちで、ベトナム人の多くは技能実習生として

働きながら日本語を勉強している若者たち、中国人は仕事をしている人や学生、主婦など様々です。平日の夜に勉強に来るのは大変ですが、皆さん本当によく頑張っています。ボランティアスタッフは日々、学習者のやさしさに癒され、元気をもらっています。

「ゆう」のフェイスブックを開設したら、



いろんな国の日本語勉強中の人からたくさん「いいね!」。場所を確認せずに「参加したい」とメッセージを送ってきて、実はアメリカ在住だったということもありました。「残念ですね」と送ったら、「だいじょぶ」との返信。日本語で世界の人とつながれるって素敵です。「ゆう」はその窓口です。

会員団体紹介

Nice to Meet You

nice to meet you

■文字通り、様々な国の方達が集いコミュニケーションをとる場です

土曜ひろば(初歩日本語) (練馬区)

日本語講師／山田則光

数年前から初歩日本語で中国の方に日本語を教えています。この教室は水曜日の夜間に行われていますが、土曜日は日中に行われています。場所は光が丘にある練馬区の区民センターです。

私は、日本語教師の資格は取りましたが、生かせる場がなく悩んでいた時にたまたま練馬区にいくつかボランティア教室があることを知り応募しました。仕事のある関係で、平日の夜ではなく、土曜日のクラスで教えることとしました。

今の生徒さんは、日本語能力試験のN1取得者で、既に高い日本語能力をお持ちですが、やはり中国の方によくありますように、漢字の訓読みに苦労しています。毎回の授業では新聞の社説を読むとともに、レベルに応じた練習問題をこなしています。このレ

ベルになると、日本語の似たような単語や表現による微妙なニュアンスの差への理解が求められます。これが教える側からも苦労している部分です。

この教室にはこの生徒さん以外にも、これまでこの教室で学んだ様々な皆さんが訪れており、いつも賑やかです。教室代表の小川さんを慕う生徒さん達の多



いことを感じます。

年に二度は、そういった以前の生徒さん達も含め、生徒さんが国の自慢料理を披露するパーティーがあります。皆さんなかなかのもので、とても美味しい、かつ楽しみなパーティーです。(どの料理もできたてで甲乙つけがたく美味しく頂いていますが、私は個人的にはフィリピンのビーフンサラダがお目当てです)

「土曜ひろば」はこのように、ただ、日本語を教えている場ということではなく、文字通り、様々な国の方達が集いコミュニケーションをとる場となっています。このような場所は少ないと思いますので、これからも引き続き、こういう場所で日本語を教えていきたいと考えています。



◎第24回TNVN総会と講演、情報・意見交換会を開きます。

日時／4月16日(日)13:00～16:00

場所／東京ボランティア市民活動センター B会議室

プログラム

- ①総会
 - 2016年度活動・会計報告
 - 2017年度活動計画・予算
- ②講演
 - 黒羽 千佳子さん
(公益財団法人 国際研修協力機構:JITCO)
 - 外国人技能実習生へ教える
- ③情報・意見交換会
 - 多文化共生社会での日本語ボランティア活動を進めるには



情報・意見交換会の参加団体

(2016年12月4日)

江戸川日本語クラブやまびこ／にほんごクラブ・ゆう／江戸川日本語交流会B／やさしい日本語／本所賀川記念館日本語教室／NPO 法人IWC国際市民の会／西大井日本語クラブ／さぼと21／早稲田奉仕団日本語ボランティアの会／JCA千歳船橋／日本語サークル「わかば」／多文化子ども自立支援センター／光が丘ことばの会／初歩日本語／ビバ日本語教室／にほんごの会くれよん／多摩市国際交流センター／日本語ボランティア翼の会(夜の部)／府中国際交流サロン／町田日本語の会／まちだ地域国際交流協会／東京都生活文化局都民生活部

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVN の会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVN は会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

- ◆日時：毎週金曜日午後2時～4時
第5金曜日／休み
- ◆場所
東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線)出口B2b) 飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー
- ◆日本語ボランティア相談窓口
日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしております。
〒162-0823
東京都新宿区神楽河岸 1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4
- ◆TEL：03-3235-1171
(呼出：金曜日活動時間帯のみ)
- ◆FAX：03-3235-0050
- ◆E-mail：webadmin@tnvn.jp
- ◆URL：http://www.tnvn.jp/
- ◆郵便局払込
口座番号：00100-1-719259
加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

◎平成28年度東京都社会貢献大賞特別賞の受賞団体

(2017年1月22日)



- ◆大賞
企業／日本電気株式会社
教育機関／明治学院大学
その他民間団体／江東区町会連合会
35(産後)サポネットin荒川
- ◆特別賞
企業／パナソニック株式会社
その他民間団体／
東京日本語ボランティア・ネットワーク
認定特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク

Column これからも……

新しい年が明けて最初に発行されるニュースレターは三月初めで、読者の皆様に「本年もよろしくお祈りします」と書くのもおかししいし、かと言って、新年の挨拶もしないで活動を始めるのも何か忘れ物をした様な落ち着かない気持ちです。

そろそろ今年最初のニュースレター発行に向けた作業に取り掛かろうと、頭の中が通常モードに戻り始めた1月13日、東京都知事定例報道発表で、TNVNの「東京都共助社会づくりを進めるための社会貢献大賞・特別賞」受賞が正式に報告されました。

長い間 TNVN の活動を支えて来られた、梶村代表、林川事務局長と、会計を担ってくださっている矢崎さんの日頃のご尽力が東京都に認められた結果で、とても喜ばしく思います。

日本に住む外国人は年々増加し、地域の日本語ボランティア教室は、今まで以上にその役割が期待されると思います。ニュースレターを通じて色々な情報を共有すると共に、積極的に TNVN を利用していただきたいと願っております。

(SJ)

- ◆新会員紹介
にほんごクラブ・ゆう (江戸川区)
ハロークラブ (豊島区)
ウィローズ コミュニケーション (江東区)
- ◆会員数 (2017年2月10日現在)
正会員：89団体
個人協力会員：14名
団体協力会員：1団体
賛助会員：4団体
- ◆編集／大木 千冬、岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利、神 歩、床呂 英一、林川 玲子、山内 眞理
- ◆レイアウト／鶴田 環恵